

だ み よ く り に

No.759 令和7年3月1日発行



「自分という花を」

年齢を積み重ねていくうちに、自分の知っていることが他人にとっての常識ではないということを知ります。つい先日、「写メ」という表現が年齢差のある相手に伝わるのか心配になり、「写メって知ってる？」と思わず確認しました。まだ通じるようです。安堵しました。それはさておき、数日前、駅の改札を入ると女子高生と思われる子が数名、地べたに座り、飲み物を手にして楽しそうにおしゃべりをしていました。衝撃でした。公共の場、ましてたくさんの人の往来がある場所、大声でおしゃべり……。目がテンとはまさにこのことでしょう。大人の目が届かなくなる年齢で、大人がいなくてもきちんとして自分で考えることができること、自己判断ができること、自分を律することができること、が必要です。子どもたちにもそうであってほしい、改めて願わずにいられませんでした。そのために、大人の目の届く乳幼児期にわたしたち大人がしっかりと目をかけてあげることが大切だと思います。彼女たちの姿を見て、大人の役割について考えさせられました。

ある年中のお子さまは、手を洗いペーパータオルで拭き取ると、それを捨てる前にごみ箱を拭きます。縁にそって、2往復ほど拭いてからペーパーを捨てます。これは恐らく、こまめに水滴を拭きとることのできる状態を保とうとする保育者がやっているのを見て、真似たのでしょう。わたしたち大人は子どもたちによく見られている、ということです。また、たった2日間保育ボランティアで来ていた人に7か月ぶりに再会したら、「〇〇せんせい」と名前を呼んでいる年長がいました。たった2日間という短時間での出会い、

出来事を覚えていたのです。わたしたち大人は子どもたちに記憶される、ということです。やはり子どもってすごいですね。そう考えると、大人の言動の重要性、責任をますます感じますね。気が引き締まります。

では、大人にできることは何か、と思われるかもしれませんが、以前載せたことがある佐々木正美先生は、大人の役割、しつけについてこのようにお話しされています。

「家庭のなかで子どもを受容、許容、承認すること」(安らぎのもと、心のよりどころとなること)と「子どもの成長にしたがって、さまざまな規律、約束、義務、努力、緊張といったことを教えること」をバランスよく子どもに働きかけることが大事であるのはもちろんのこと。もっと大切なのは、まず前者を充分に与えること、そして順次、並行して後者のしつけ的な育児をするように心がけること、つまり順序が大切である。それが子どもたちの社会性の発達や人格の成長に決定的に影響するからである。

これまでに会ったたくさんの子どもたちを思い返すと、これは理にかなっていると共感します。

みくに学園では、「よくかんがえる」「自己判断できる子」に育つよう、日々の生活や教育的カリキュラムを積み重ねています。一番大切なのはご家庭（ご家族）です。わたしたち園も自分たちの役割を全うすることで、お子さまの育ちを支えることが本望です。

今年度も園の教育保育にご理解ご協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。そして、子育て、家事、仕事、療養、介護、勉強……重ねてこなす保護者の方へ尊敬の念を込めて、今年度の園だよりを締めたいと思います。春に色とりどりの花が咲き誇るように、新年度も子どもたち一人ひとりが自分という花を誇らしく咲かせますように。